

令和五年度 入学式 式辞（山村学園短期大学）

新入生の皆さん、入学おめでとう。

ちまたで咲いているソメイヨシノと違って、葉と花が同時に芽生えるヤマザクラが満開、足元には黄色の花のレンギョウ、職員駐車場には年に二度咲くユツカランが芽を出し、ロータリー近くにはスイセンのような茎にスズランのような白い花を咲かせる「スズランスイセン」が皆さんの入学を祝って咲いています。

本日は、後援会長 渡辺真佐江 様 同窓会長 雨間元良^{あめま} 様
学校法人山村学園より岡理事長、三名の理事の方々に

ご臨席をいただいております。

本学にはクヌギ、コナラ等のドングリの木を始め、たくさんの樹木があります。

一般的な大きさの樹木は、四人が呼吸するのに十分な酸素を毎日供給しています。深く呼吸し、あなたの肺を森が作り出した酸素でいっぱいにします。そしてあなたが息を吐くたび、お返しに周辺の樹木に二酸化炭素を供給するのです。葉の裏側には無数の気孔と呼ばれる穴が開いていて、空気を出入りさせています。手を伸ばし、やさしく葉を手に取り、鼻を葉の裏側に近づける。樹木が作り出した酸素を吸い込み、あなたの二酸化炭素を葉に吐き出す。こうすることにより呼吸をするたびに、あ

なたと樹木が強く結びつけられていることを、互いに与え合う関係である
ことを感じ取ることができるのです。

『人間と樹木は呼吸を通じてつながっている。我々は互いにとっての空気である』とマーガレット・ベイツは言っています。

あなたは大地にしっかりと根を張り、幹を空高く伸ばす。太陽の光と森の空気を存分に浴びる。あなたの体にはたくさんの葉がついている。太陽の光があなたの中に差し込み、生命をつくり出す。そして森の音を聞く。あなたの周りにたくさんの森の生き物がいることに気付く。樹木—低木—野鳥—岩石—草—花 これら全てが、あなたと共に助け合い、調和を持って暮らしている。自然の慈悲と、全ての生き物たちのつながりを感じ取ることができるのです。

世界を見渡すと、自然回復力を上回るスピードでの森林伐採や焼失が原因で、世界の森林面積が激減している現状があります。とりわけマレーシア、インドネシアをはじめとする東南アジアと、世界最大の熱帯雨林アマゾンです。まさに人類存亡の危機ととらえ、できることから少しずつ実践していかなければならないと考えます。本学の豊かな自然にどっぷりと浸り、豊かな感性を養っていただきたい。

さて、保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。ご入学、本当におめでとうございます。

作年度もコロナウイルス感染拡大に明け暮れた年でした。

学園祭を始めとする数々の行事が縮小となりました。しかし、本学では他大学が延々と遠隔授業が展開される中、三密を避け、消毒や換気に十分配慮しながら対面授業をメインとして実施してきました。本年もそれを基本として実施してまいります。

新人生の皆さん、「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこのキャンパスを愛し、入学して良かったと思える学園生活を、先輩と一緒にになって創ってくれること、そして本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」にあるように、人生にとってかけがえのない友をつくってください。

コロナ感染がいまだ収まらない中、このように保護者の参加のもと入学式ができる喜びを胸に、実物に触れることのできる、本学の自然豊かな「森の学園」での二年間で感性を磨き、保育の心を十分に育んでいく中で、光り輝く自分を発見していくことを期待し、式辞といたします。

令和五年四月一日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口一夫